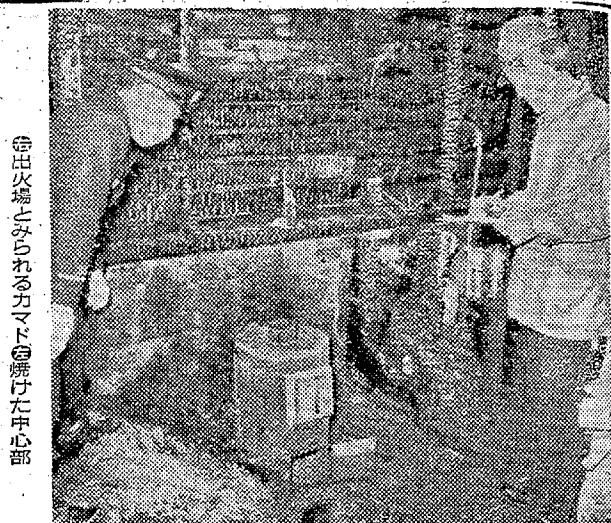
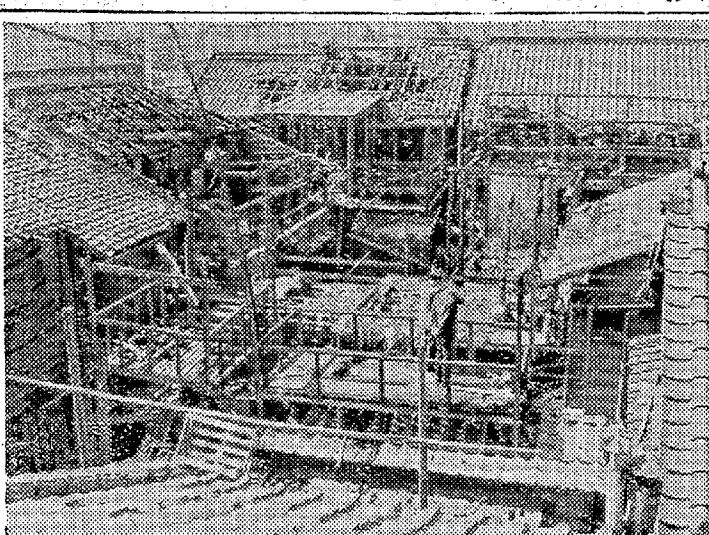




大浦支所が新築移転した。これまで旧大浦村役場を支所としていたが、敷地が大浦港務所で競争と決めたもの。



新出火場とみられるカマド窓焼けた中心部

二十一日平市白銀町の仲見世通りの一角千百三十平方尺を焼いた。原因について平野で調査しているが三階建ての水戸屋旅館。富崎太郎さん(やさ)のプロの方。馬場付近から出火したものとみて、当朝八時ころ消防のため風呂を洗ったとみられる使用人斎藤良子さん(やさ)から事情を調べている。現場は水戸屋旅館の一階手の踏下にある十五平方尺の風呂場で、タ

イルの浴槽は異常なく、三方がモルタル造りで、循環方式のわきが浴槽に通する水道パイプ(鉛管)が火勢に溶けていた点が重視され、このわきに燃え物があった点などから取扱い不始末による出

湯の岳まで往診

坂本医師 急行し感謝される

常磐市の背後、そびえる湯の岳の山腹にある田代温泉に急病人が発生、この知らせを常磐市診療所が坂本医師(や)と外科部長がかけつけ手当をして一命をとりとめたところ、驚きの事実があつた。この田代温泉は常磐市じつとも裏側あたり内郷市高瀬から登らなければならぬ、わざか七戸の部屋である。この部屋の吉田太郎さん(やさ)が去年十一月後三時半分ごろ脳溢血で倒れたので最年長さん(やさ)が急いで山を駆け登り、やむとてある内郷市高瀬所へ往診を求めるが、医師の手不足から往診できまいといわれた。事情をきいた佐藤課長が市営診療所に手配して折よく居合わせた坂本医師に往診を求める。

四倉町役場と連絡協力の都合から立退きを要求された

所は大浦市民館にいた。県では町村合併の趣旨ない

が、敷地が大浦港務所で競争と決めたもの。

大浦支所が新築移転する。こ

そと廢止を指令してきたが、鈴木町

長は町村合併の趣旨ない

が、敷地が大浦港務所で競争と決めたもの。

